

新しい仲間の紹介

7月と8月の組合員の加入者です。

支部名	岐阜県		
岐阜	所 史孝	村瀬 優	
西濃	深山 孝子	宇佐美 洋	
関	山田 一郎		
加茂	内川 史朗		
多治見	梶田 利男	水野 達朗	安藤 丞



老木のひとり琴 ②

小学校六年の夏、戦争が終わって、周りの生活は徐々に元に戻っていった。しかし、一番上の兄は、戻ってこなかった。その前年、テニヤン島で戦死した。

周りが元に戻るとともに、連合軍の占領によって、いろいろとめまぐるしく変わっていった。中学に入り、自由とか民主主義がデモクラシーという言葉が、どーと入ってきた。その時に得たものは、理屈ゆきで今も体の中に残っているように思う。しかし、一方、広島・長崎に投下された原爆の搭載機が、兄が戦死したテニヤン島から飛び立ったことを、戦後になって知って、複雑な思いにかられ、今もくすぶっている。

今年の五月、急に原爆ドームを見たくなって広島へ出かけた。原爆ドームと新緑が実に印

点々とした思いをつなぐ

十歳位(小四)の少女が傍に来ていろいろ話しかけてきた。私があげた紙と鉛筆で絵を描きながら、原爆のことなどを話していたら、少女が「この爆弾を落としたアメリカの人はどんな気持ちだったろうね?」と語りかけてきた。答えを探しているうちに、少女は話題を他に移動してしまい、最後に「これあげる」といって、「焼きそば入りのサンドウィッチ」を残して去っていった。

私が、兄を岐阜駅前の大通りで最後に見送ったのは、ちょうどこの少女くらいの時であった。この通りは、「凱旋通り」から「平和通り」、「金華橋通り」と名前を変えたが、やはり「平和通り」がいい。その「平和通り」を平和と豊かな暮らしを願って、長いデモ行進が続くのが美しい。

福井信郎

審査会へ口頭陳述

後藤 金夫 77歳

今回のこの手続きの中「補正命令書」など難解な文書が送られてきました。陳述の機会を与えられても遠方であり旅費もいりませう。高齢の身でもあります。そして何故、陳情者の便をはかって近隣の多治見合同庁舎などで行われないのでしょうか。

私は「もう代表の方にお任せしようか」と思っていたのが実状です。それが、あることから出席することに決めました。

私は1930年生まれで77歳



私の家には田んぼと畑があり、稲作は二十数年前からやっているが、野菜づくりは数年前からで失敗もよくある。

夏は多くの野菜が収穫できる季節であり、私は七月上旬から五時の過ぎには起きて野菜を穫ってくるのが日課になっている。キュウリ、茄子、トマト、ピーマン、ゴーヤー、モロヘイヤ、オクラ、大葉(青じそ)などは毎日か一日おきに穫っている。

試行錯誤の野菜づくり

植えた。根付いたが、

成長が遅い。苗が悪いのかと思っただけで、同じ苗のTさんの畑では順調である。その原因を考えた結果、畝立てしてから十日間も経ってお土が固くなったからだという結論に達した。八月になり順調に成長してきたが、その間三回雑草を取らなければならなかった。

加藤 昌宏

新役員的心

県執行委員

家から段々畑をあがり、山裾に祖父が掘った防空壕、遠い昔のことになってしまった。我が家は名古屋や岐阜、軍需工場のカヤバ、駅から遠い田舎。夕方どこかのおじさんがメガホンを持って「空襲警報発令」と走って行く。星や月明かりを頼りに小さな防空頭巾を被り、袋を背負い私は防空壕へあがっていった。

憲法を中学2年生になって社会科学で学んだ。前文を書く課題が出された。それは苦痛でなく(わかっていく)ことで、本當にうれしかった。国民主権、基本的人権、平和の三大主義は私たちの宝だ。

私も年金者組合に入れてもらった。退職後、腰が曲がってきてピッコが余計にひどくなっている。おまけに難聴になってきた。不安である。しかし年金者組合は社会と私にとって必要だ。

加茂と分かれて可児支部をつくり仲間を増やし活動してきた。その中に8人で取り組んでいる《野菜つくりサークル》もある。岐阜県中どこにも、この年金者組合をつくり、平和と民主主義、高齢者の人権が守られ、幸せを引き寄せられるようにしたいと思う。



執行委員 可児 昭治さん

月5000円弱。少ないけれど60歳の受給時申請をして受給して

私どもの年齢になると同年の友人が三三五と死亡する。法事がつづきます。その食事の席で、私のところに来てしばらく去らない友がいました。彼は軍需工場に行っていた3人のうちの一人です。年金受給時、申請しないかと呼びかけたが、彼は小額なこと手続きが面倒か申請しなかつた。

だが今、高齢者にのしかかる負担は耐え難いものとなってきている。先の所得税の老年者控除をはじめ年々、負担は増えてきています。

女房も前期高齢者で医療負担がこの8月から1割から2割へと倍額です。

国保料も、わが家の場合、平成19年が1万1千8820円だったのが、20年度は私が除かれた結果、4万3千680円と減額。しかし新しい後期高齢者医療制度の保険料が9万3千800円で合計13万7千480円。

前年度とくらべて、差し引き1万8千660円の増額、負担増となつていきます。

私たち高齢者、年金生活者にとつて、いいことがなさ過ぎます。せめていいことが1つでもあつて欲しい。かつては、老人医療助成制度で無料でした。

ところが今はどうか、福祉は一体どこに行つてしまったのでしょうか。

近日、軍需工場に行っていた友人は年金受給手続きをしたという、年50000円、月5000円弱の手続きです。つらいことです。彼は何代目かの陶磁器製造業の主でした。

新しい貧困にあえぎ、わずかな収入に望みをかける姿。私は、それを聞いて、当初迷っていた、この陳述の出席を決心しました。この実情を訴えねばならんと使命感を抱いたのです。

つづく

